



名古屋の偉人伝

No.2

伊藤圭介(いとうけいすけ)の巻

ここがスゴイ！

わが国最初の理学博士！

おしべ めしべ
「雄薬」「雌薬」「花粉」などの用語を訳出！！



鶴舞中央図書館前の銅像

こんな人生を送ってきました(経歴)

享和 3(1803)年 1 月 27 日生～明治 34(1901)年 1 月 20 日没。

名古屋呉服町(現在の中区丸の内三丁目)に生まれる。医学を父・西山玄道から、本草学を水谷豊文に、蘭学を吉雄常三らに学ぶ。24 歳のときシーボルトに出会い、27 歳でツェン

ベリー著『フロラ・ヤポニカ』を訳述した『たいせいほんぞうめいそ泰西本草名疏』を刊行、この中で「雄薬」などの用語を初めて使用しリンネの植物分類法を紹介した。45 歳で尾張藩医となり活躍。その後、文部省や小石川植物園、東京大学でも登用され、86 歳のとき理学博士の称号を受けた。

もっとくわしく知りたいあなたに(参考文献)

『伊藤圭介の生涯とその業績』(名古屋市東山植物園 2003 年)

『伊藤圭介』(杉本勲/著 吉川弘文館 1988 年)

「泰西本草名疏」(『名古屋叢書三編 19』名古屋市蓬左文庫/編 名古屋市教育委員会 1982 年)